

クエートの 金融事情について

まつむらせいじろう
松村清二郎

I はしがき

中東のアラビア湾（今日ではペルシャ湾と呼ぶとおこられる）の奥まった一角にクエートという名の小さな国がある。クエートとは「トリデ」を意味するアラビア語 Kut の縮小名詞で、いわば「小さなトリデ」というわけ。昨1961年6月19日にイギリスの手より完全に離れて独立した本当に小さな土侯国である。その面積およそ9375平方マイルでほぼアメリカのニュージャージー州に匹敵するこの国は、元来、地の果てを思わせる砂漠以外になら取りえのない小さな港町にしかすぎなかった。ところが運命のいたずらか、慈悲深きアッラーのおぼしめしか、とんでもない怪物が地下にひそんでいた。その名を石油——現代世界のもっとも重要なエネルギー源——という。大戦以来石油需要は急速に増大してきたが、そのテンポは1950年代に入って加速度的となる。特筆すべきはモサデグの企図したイラン石油国有化事件。その結果イギリスはその主要エネルギー源を確保すべく、イラク、クエートなどの石油生産に一大馬力をかけることとなり、それ以来クエートは中東において最大の石油生産国となった。そしてこの順位は今日にいたるも変わっていない（注：世界では U. S. A., U. S. S. R., Venezuela について第4位。ただし確定埋蔵量では文字どおり世界一）。

かくて石油利権収入という名のもとに黄金の波がどつと押し寄せることとなった。しかもこの黄金の波は年々大きくなりこそすれ小さくならないという傾向を示しているのである。これまで詳細な歳出歳入の数字は公表されていないが、昨年独立以来設立された財政経済省のおおまかな数字をみると第1表のとおりである。

1961/62会計年度の歳出は約1億5520万ディナールといわれ、それは次のように割り当てられる。保健サービス790万ディナール、教育240万ディナール、社会サービス660万ディナール、治安・防衛・外務5430万ディナール、開発7500万ディナールとなっている。

このように文字どおり金がうなるほどある新興独立国クエートに、筆者は訪問の機をえた。そしてその滞在中

第1表 クエートの歳入歳出

(単位：ディナール)

年	石油収入 (A)	一般収入 (B)	総収入 (A)+(B)	支出
1953	60,161,482	1,636,380	61,797,862	38,081,396
1954	69,302,300	4,570,621	73,872,921	42,848,782
1955	100,498,363	4,454,157	104,952,520	43,257,128
1956	104,321,003	8,785,135	113,106,138	59,387,167
1957	110,161,132	5,776,365	115,937,497	90,841,271
1958	127,386,686	9,324,225	136,710,911	117,987,159
1959 15カ月	160,290,007	16,315,059	176,605,066	195,161,233
1960/61	159,496,486	14,316,038	173,812,524	133,210,989

のわずかな暇をぬすんで、かかるクエートの経済事情、とくに金融機関関係のそれについて当たってみたのでその結果を若干報告してみたい。

II クエートの通貨

過去においてイギリスの影響のもとにおかれていたクエートは、その他のアラブ湾岸諸地方と同じく、インド通貨圏に属し、ルピーが流通貨幣として使用されていた。これはイギリス勢力進出当時、近代的な貨幣制度がなかったのでインド・ルピーを導入したためであろう。しかしながら時代の変化とともに、クエートでも自国通貨を正式に確立しようとする動きが現われ、1960年にいたって、新たにクエート・ディナールという名の貨幣が正式通貨として流通することとなる。

わが国の日本銀行のごとき職能をもつ発券銀行を持たないクエートは、1960年の政令第41号 (Amiri Decree No. 41 of 1960) によって「クエート通貨委員会」(Kuwait Currency Board) という機関を設置した。この委員会は、財政経済大臣を議長とし、同大臣の推選で任期3年で任命される6名の委員からなる独立機関であり（政令第41号第2条）、クエートにおける唯一の発券機関として（同第7条）、紙幣の印刷、硬貨の鋳造、およびこれら紙幣・硬貨の発行・回収などの責に任ずる（同第8条）。委員会はこのため Currency Reserve Fund を設定し、通貨の redemption にそなえる（同第9条）。また同 Fund の資産は、金貨もしくは金塊を通貨発行高の少なくとも50%、その他残金は、無制限に交換可能なスターリング・ポンドその他の外貨、商業債、政府公債などで保持される（同第11条）。

すでに触れたように、クエートの貨幣単位は、Al-Dinar-al-Kuwaiti、すなわちクエート・ディナールと呼称され、ディナールは、1000フィルスに分かれる。1ディナールは純金248,828グラムの価値を有する（同第16

条)。ということは、事実上、ディナールはスターリング・ポンドとパーということである。新通貨は100%準備の裏付けをもち、そのうち50%は上述したように金であり、1962年4月3日にとりあえず1万kgの金塊がロンドンからBOACのチャーター機で空輸されてきたとのことである。筆者がCurrency Boardを訪れてイギリス人専門家 R. H. Turner 氏に面会した際尋ねたところによれば、クエートはこれまでのいきさつから引き続きスターリング地域にとどまるものとみられる。クエート・ディナールの発行高をみると第2表のとおりである。

第2表 通貨発行高 (Kuwait Currency Board)

(単位: ディナール)

貨幣種類	1962年8月31日 現在発行高	1962年9月30日 現在発行高
10ディナール札	25,200,130,000	25,473,660,000
5 "	3,602,130,000	3,287,125,000
1 "	2,103,075,000	2,143,075,000
1/2 "	385,173,500	389,673,500
1/4 "	240,117,750	234,617,750
計	31,530,626,250	31,528,151,250
100 フィルス貨	117,598,400	118,598,400
50 "	75,499,500	76,124,500
20 "	31,519,920	31,919,920
10 "	22,759,880	23,159,880
5 "	11,099,960	11,099,960
1 "	1,429,986	1,479,986
計	259,907,646	262,382,646
紙幣および硬貨総計	31,790,533,896	31,790,533,896

R. H. Turner (署名)
Secretary, Kuwait Currency Board.

III 金融機関について——その(1)

すでにふれた1961年の政令第41号から明らかのように、クエート通貨委員会はクエート・ディナールという名の通貨を発行し、その価値を保持することを目的として設立されたものである。いわゆる発券銀行としての機能を有するわけである。ということは、換言すれば、クエートにはわれわれが常識的に知っているような職能をもち、中央銀行は存在せず、したがってまた、市中銀行よりの手形再割引とかその他の金利政策、あるいは公開市場操作というような一般金融機関にたいする統制的手段は存在しないということになる。かくてクエートにおいては、いわゆる市中銀行は、かかる意味での中央

銀行が存在しないがゆえに、まったく自由な営業活動を展開しうるわけである。完全なレッセ・フェールというわけだ。

筆者が R. H. Turner 氏に質問したところ、クエート通貨委員会は、ただ通貨を発行し、かつその価値を維持することのみをその任務としており、将来、拡大発展的に中央銀行の設立という方向をとるかどうかはいまのところわからないとの由。通貨委員会自体まだできてから18カ月の機関ゆえ、すべて問題は今後の発展いかんにかかるとみてよかろう。設立後日浅いから、バランス・シートも年次報告も刊行の段階に立ちいたっていない。

IV 金融機関について——その(2)

以上のような基本的状況のもとに一般の市中銀行が存在するわけである。現在クエートにおいて営業している銀行は次のとおり。(1) The British Bank of the Middle East, (2) The National Bank of Kuwait, (3) The Commercial Bank of Kuwait, (4) The Gulf Bank, (5) The Credit Bank. なおとしあたり The United Bank という名の新しい銀行が設立されるといううわぎがもっぱらのようである。

(1) The British Bank of the Middle East

これはその名の示すとおりイギリスの銀行であり、中近東諸国における銀行の老舗である。クエートにはその支店が存在し、商業金融を行なっている。そのためクエート関係のみの同行の数字は得られなかったが、同行のクエート支店がもっとも利益をあげているであろうことは疑いない。それというのも、外国銀行はこのブリティッシュ・バンクだけだからである。それは Monopoly Concession の下に同行のみがクエート唯一の外国銀行として営業していたからである。しかしながらこの Concession はここ数年以内に期限がくることになっている。

(2) Bank-al-Kuwait-al-Watani (the National Bank of Kuwait)

次に外国系でないいわゆる民族資本による銀行で一番古いのがこのナショナル・バンク・オブ・クエートである。同行の設立されたのは1952年、授權および払い込み資本は196万5000クエート・ディナール(196万5000スターリング・ポンド)である。配当は1960年の1割5分から翌1961年には2割配当となっている。1961年末の純益は110万9945ディナールである。1961年12月31日現在のバランス・シートは第3表のとおりである。

(3) Bank-al-Kuwait-al-Tijari (The Commercial Bank

現地報告

of Kuwait)

コマーシャル・バンクは1960年に設立されたばかりの新しい銀行で、授權および払い込み資本は150万ディナールで、配当は6分、純益は22万6167ディナールである。1961年12月31日現在のバランス・シートは第4表のとおりである。

(4) Bank-al-Khalij (the Gulf Bank)

ガルフ・バンクもやはり1960年の設立であるが、実際に営業を開始したのは1961年10月5日。したがって、まだ他行のような Annual Report を出すにいたっていない。

い。筆者がイギリス人の副マネージャーに会って聞いたところ、授權および払い込み資本は180万ディナールとのことであり、また同行の性格は一般の Commercial Bank と同じとの由である。

(5) Bank-al-I'timan (The Credit Bank)

最後にくるのがクレジット・バンクである。この銀行は以上にあげた諸銀行と異なり、財政経済省の監督下にあり、1960年法律第40号「信託銀行設立法」によって設立されたものである。この銀行の目的とするところは不動産、工業および農業信託である（同法第2条）。資本

第3表 Balance Sheet (The National Bank of Kuwait Ltd.) Dec. 31, 1961

Liabilities (単位: クエート・ディナール)		Assets	
Capital	1,965,000	○ Cash and Current Accounts with Banks	3,092,075
Statutory Reserve	111,000	○ British Government Treasury Bills	5,250,000
General Reserve	3,289,000	○ British and Other Government Securities (at under market value at 31st December 1961)	9,009,625
Profit and Loss Account	101,601	○ Deposit Accounts with Bankers	47,100,000
	5,466,601	○ Advances to Customers, Bills Discounted and Other Accounts	16,924,186
Current, Deposit and Other Accounts (including inner Reserves & Provisions)	76,266,285	○ Sundry Unquoted Investments, at or under cost	
Proposed Dividend	393,000	Subsidiaries	500,000
Confirmed Credits, Acceptances and Guarantees on behalf of Customers, as per contra	8,406,272	Others	75,000
		○ Land and Buildings	
		△ at cost less amounts written off at 1st January 1961	150,000
		△ Additions during 1961	53,527
			203,527
		○△ Sales and written off 1961	28,527
		○ Liability of Customers for Confirmed Credits, Acceptances and Guarantees, as per contra	8,406,272
	90,532,158		90,532,158

第4表 Balance Sheet (The Commercial Bank of Kuwait) 31st December 1961

Liabilities		Assets (単位: クエート・ディナール)	
○ Capital	1,500,000	○ Cash and Balances with Bankers	1,932,107
○ Statutory Reserve—10% of Profit	22,617	○ Money at Call and Short Notice	3,750,000
○ General Reserve	72,373	○ British Government Treasury Bills and Fine Bank Bills	5,643,355
○ Profit and Loss Account	41,177	○ Deposits with Bankers	13,650,000
	1,636,167	○ Advances to Customers, Bills Discounted and Other Accounts	1,780,593
○ Current, Deposits and Other Accounts	25,129,888	○ Premises and Property, less amount written off	100,000
○ Dividend-Provision for Proposed payment of 6%	90,000	○ Customers Liability on Confirmed Credits, Guarantees and Other Obligations as per Contra	2,399,410
○ Liability on Confirmed Credits, Guarantees and Other Obligations as per Contra	2,399,410		
	29,255,465		29,255,465

金は1億ルピーで政府の全額一時払い込みである(同法第7条)。筆者はこの銀行のクエート人理事に面会する機会を得たが、営業開始後いまだ日浅く、年次報告を出す段階にいたっていないとのことであった。しかし別の資料によれば、営業開始の最初の年に1万0837口の応募申し込みがあり、その額は62万8827ディナールにのぼったとのことである。

V クエートの市中銀行の性格

さてこのようなクエートの諸銀行は、しからばいかなるタイプの銀行であるかが問題となるが、それは前項に掲げたバランス・シートをよくみるとわかる。とくに貸し方の項目に注意する。

まず第1に、現金もしくはそれに類する資産は、クエートの石油収入がスターリングでなされることと、クエートがスターリング地域に属するなどの事情も手つだつて、主としてスターリング・ポンドの形で保持されていることである。さらに現金・外為以外の資産として保持されている政府公債もしくは金融債などはほとんどすべてイギリスのそれである。こうした性格は、クエートにいわゆる中央銀行のないこととあいまってクエートの市中銀行をロンドンの金融市場と密接に結びつけることとなる。したがってクエートの銀行は、The Credit Bankを除いて、ロンドン金融市場の動きに注意を集中するわけである。こうした傾向はイギリスの影響力のもとにかかっておかれていたイラク、ヨルダンその他の国々にかなり共通した現象であり、当分この関係は変わらないものとみられる。そして、こうした各市中銀行の政策は、各行にイギリス人の専門家がマネージャーとして存在していることから変わらないと思われる。

第2に注目されるのは、各銀行の主たる営業項目である。元来イギリス系の諸銀行においては、商業手形割引を中心とした短期貸付、いかえれば輸出入貿易決済のための短期金融が主要な営業活動である。ということは、わが日本におけるがごとき各企業に対する長・短期の貸付、ないし投資などが存在しないことを意味する。つまり短期商業金融のみを行なって各企業についてあまりコミットしていないことである。これがイギリス系銀行とわが日本の銀行との相違である。クエートの市中銀行もヨルダン、イラクその他の国々の銀行と同様、かかる短期商業金融によって利潤をあげているのである。

すでにふれたように、クエートにおいては、市中銀行は完全なレッセ・フェールのもとにおかれているのだから

なんでもできる道理だが、イギリスによって銀行システムが導入された関係上、当分のあいだこうしたイギリス・タイプの考え方は抜けられないと思われる。いずれにしても Commercial Bank ということばがびったり当てはまるようだ。

VI クエート投資会社

一般の市中銀行は、上述したようなぐあいとその営業活動を行なっているが、クエートにはこうした銀行以外に興味をひく存在がある。その名を Al-Sharikat-al-Kuwaitia lil-Istithmar (The Kuwait Investment Company) といい、1961年の政令第29号に基づいて設立された半官半民の機関である。資本金は1500万クエート・ディナールで、10ディナールの株券150万株から成る(Act of Constitution, The Kuwait Investment Company 第6条)。設立者たる政府は、うち75万株(すなわち50%)を引き受け、その額面価額の25%すなわち187万5000ディナールをナショナル・バンク、コマーシャル・バンク、ガルフ・バンクとブリティッシュ・バンクに払い込む。残余の株式は一般に公募される(同第7条)。

この会社の存立期間は一応30年間とされているが、臨時株主総会の決議によってその期間を延長することができる(Statutes of the Kuwait Investment Company 第1章第3条)。会社の目的とするところは、(1)株主基金などの投資とその利殖、(2)利潤追求を目的とする他の会社の設立に参加すること。(3)政府および半政府諸機関の債券、あるいは会社株式の売買等、(4)資本投下に関連した諸研究ならびに調査をなすこと、などである(同第4条)。

クエート投資会社のこうした営業活動はクエート国内のみに限られず、海外投資にむしろ重点がおかれているように観取される。海外の投資先としては、イギリス、アメリカ、西ドイツ、スイス、日本などが考えられているという話であった。筆者がマネージャーに尋ねたところでは、クエート国内に現在、約250万ディナール(これは主として銀行への融資)、日本に対して約110万ディナール、アメリカには50万ディナール投資されており、また今週中(1962年10月24日現在)にイギリスに対し50万ディナール(ということは50万スターリング・ポンド)を投資することになっている。

しかしながら同社の業務開始は今年3月23日であり、組織の整備その他すべてがこれからというところである。したがってまた、上記以外の数字に接することはで

現地報告

きない。

Ⅶ 保 險 会 社

クエートにクエート資本の保険会社をはじめてできたのは1960年8月である。そしてそれは資本金37万5000ディナールの Kuwait Insurance Co. である。1961年末に1割配当を行なっている。つきに今年4月に第2番目の会社が生まれた。The Gulf Insurance Co. がそれで、資本金は80万ディナール。これにはガルフ・バンクの設立者のほとんどが参加しているとのことである。この保険会社の主要業務は、保険にあることはもとよりだが、同社は不動産を国際投資の分野に手を出そうという意欲があるらしい。第3にナショナル・バンクの流れをくむ新保険会社がちかいうちに誕生するといううわさがかもっぱらである。

1961年8月に制定された保険法は、クエートで営業する保険会社をふやすことを目途としているが、実際ここ数年のうちに、外国系保険会社はそのもっとも強いものだけが生き残れるというほど、クエート系保険会社が強くなってきているようである。しかしながら、クエートにおける熟練の欠如が、こうした外国系保険会社の存在をこしばらく許容するであろう。

Ⅷ む す び

以上が3日間にわたって(実際には官庁などの執務時間はだいたい午前中なので、1日半ということになる)、瞥見したクエートの金融事情の概観である。すでに各項においてふれたことから明らかなように、(1)クエートは1961年6月に生まれたばかりの新興独立国であること、(2)したがって法の整備あるいは機構・組織づくりなどすべてがこれからという段階、(3)また中央銀行に相当する機関のないことも手伝って一般の市中銀行等についての統制手段は事実上存在せず、まったくのレッセ・フェールであること、(4)そうした一般の市中銀行、保険会社その他の機関自体、設立されたばかりの歴史の新しいものばかりで、何をやらんとするかは今後の課題なること、(5)しかしながら従来イギリスの影響力のもとにおかれていた関係上、イギリス・タイプの企業内容をもつ傾向にあること、などが観取された。

新興独立国に共通した、前向きの姿勢がうかがわれ、砂漠の国の経済発展がスムーズに行なわれることが期待される。

[参考文献]

1. The Ministry of Finance and Economy, The Government of the State of Kuwait: *Kuwait Welcomes Commerce*. 1962.
2. The Government of the State of Kuwait: *Amiri Decree No. 41 of 1960: Kuwait Currency Board*.
3. The Government of the State of Kuwait: *Amiri Decree No. 54 of 1960*.
4. The National Bank of Kuwait Ltd.: *Balance Sheet and Profit and Loss Account 1961*.
5. The Commercial Bank of Kuwait S. A. K.: *Report and Accounts 1961*.
6. The Kuwait Investment Company K. S. C.: *Memorandum of Association*.
7. The Kuwait Investment Company K. S. C.: *Act of Constitution & Statutes*, 1962.
8. American Embassy, Kuwait: (*Foreign Service Despatch*), *Economic Summary for the Year 1961*.
9. Majlis-al-Naqd-al-Kuwait (Kuwait Currency Board): *Kashf bil-Naqd-al-Mutadāwil (Statement of Currency in Circulation)*, 1962.
10. *bi-Inshā' Bank-al-I'timān* (1960年法律第40号「信託銀行設立に関して」)

(アジア経済研究所海外派遣員)